令和３年度　江戸川区立清新ふたば小学校　学校関係者評価　最終評価用報告書

学校教育目標	○知　しなやかな子ども(自ら学びに向かい、知識を知恵に変え、行動できる子ども) ◎徳　おだやかな子 おだやかな子 ども (相手の 気持ちを大切にし、あたたかでぬくもりのある学校づくりの担い手となる子ども) ○体　すこやかな子ども(心身ともに健康な生活を意識して送ろうとする子ども)	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	子どもたちが自信をもって「豊かな人生」を送り続けるためには「豊かな育ち」 「豊かな育ち」を支えるのは「主体的に学び続けること」 「主体的に学び続けること」はかかわりを大切にした「豊かな学び」そして「豊かな心」を育てること
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞ ○統合新校として6年。地域や保護者の意見交換を積み重ねながら学校づくりを行ったことで、地域や保護者の皆様に「清新ふたば小」の良さを伝えることができ、支援者や理解者が増えた。 ○子供たちにとっても「楽しい学校」「明日が待ち遠しい学校」になってきている。 ＜課題＞ 豊かな学びと体験から、知識を知恵に変え、実践・行動できる子どもを育てる。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・既習事項を活かした問題解決的学習の実施 ・東京ベーシックドリルの取り組み	・児童一人一人の学習状況に即した学習指導の充実。 ・東京ベーシック診断テスト正答率80%	A	A	・放課後の補習により、きめ細かな指導ができた。 ・診断テストを活用し、普段の授業に生かす。	A	・一人一人の学力に応じた指導ができている。一人も取り残さない指導を続けてほしい。	・診断テストを活用し、児童の実態を把握、授業に生かす。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実 (読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えを主ぬめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・読書科授業の充実35時間。 ・総合的な学習や各教科と関連した探究的な学習 ・図書館の活用	・読書好きな児童80%以上 ・調べ学習が楽しい70%	A	A	・読書を通して課題解決する探究的な学習が学年に応じて行われた。 ・学校図書館の整備、地域図書館との連携が進んでいる。	A	・自主的な学習の効果が出ている。今後さらにタブレットを有効に活用してほしい。 ・学校図書館、地域の図書館を活用してほしい	・探究的な活動の時間を十分に取り、身に着けたことを多くの人に発信していく。
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・体育科の授業での運動量を増やす	・体育科の授業での運動量10%増やす	B	B	・体育の時間に様々な動きを入れ授業を工夫できた。 ・コロナ禍での遊びの工夫を提案してく必要がある。	B	・コロナ禍で外遊びの機会が減らないよう、創意工夫して思いっきり体を動かしてほしい。	・体育の授業では動きを工夫し、運動量を確保する。外遊びの遊び方を工夫する。
	オリパラ教育の推進	・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパラコーナーの充実	・実施計画に基づく年間35時間以上の取り組み	・児童アンケート肯定的回答90%以上	B	B	・様々なゲストティーチャーを迎えたことで興味をもつ児童が増えた。	B	・選手の取組や努力が結果に結びつくことを学ぶことは意義があり、レガシーとして残ると思う。	・今後も体験的な活動を取り入れる。体験で終わらないよう、今後の学習に関連付ける。
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	・外国語活動(科)の授業の相互観察　学期1回以上	・英語でのコミュニケーションを楽しむ児童80%	B	B	・ALTをうまく活用しているが、学級担任の指導力の向上が必要である。	B	・英語でのコミュニケーションを楽しんでほしい。	・ALTとの連携をさらに進めるとともに、学級担任の指導向上に向けた研修を行う。
	健全育成に向けた取組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・学期ごとに児童アンケート SC・保護者との迅速な連携	・いじめ・不登校0 ・教員間での情報共有週1回	A	A	・いじめの早期発見、早期対応をすることができた。 ・言葉遣いや態度等は引き続き指導していく。	A	・小さいことでもすぐにキャッチして対応する。教職員間の連携が必要になってくる。	・学校全体で情報を共有し、一貫した指導を行う。(週、月目標の活用)
特別支援教育の充実	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・特別支援委員会の充実 ・特別支援教育校内研修会の実施	・特別支援教室担当教員や心理士との支援方法の共通理解	A	B	・教員間での連携はスムーズに行われていた。 ・心理士やSCとの連携をさらに進める必要がある。	A	・支援の必要な児童にしっかりと手を差しのべてほしい。子ども同士に優しさや温かさが生まれるように指導してほしい。	保護者の啓発も重要視する。思いやりの心をさらに育てる。
教員の資質向上	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	・校内研修会の実施学期1回 ・学力向上委員会での検討	・学習用タブレットの活用週1回以上	B	B	・タブレットの取り扱いに慣れるよう、様々な場面で活用してことができた。	B	・対応の難しさも感じることができる。家庭と連携してタブレット使用のルールやマナーなども指導してほしい。	・活用について、各学年で共通理解する必要がある。更なる活用について検討していく。
特色ある教育の展開	持続可能な社会の実現に向けた取り組み	持続可能な社会、共生社会の創り手となる子どもの育成	・総合的な学習の時間、生活科における授業開発	・探究的な学習や体験活動を意図的、計画的に学習に取り入れる	A	A	・各学年で様々なかかわりが生まれている。自分の意見や考えを広げ、表現することができた。	A	・児童を主体にした特色ある教育がされることを期待している。	・探究的、体験的な活動ができるよう、さらに研究を重ねていく。